

テレビ接触と社会性との関連

社会性検討グループ
菅原ますみ・向田久美子・酒井厚
一色伸夫・坂元章

1. はじめに

本プロジェクトでは、第3回調査以降、子どもの社会性と映像メディア接触との関連について検討を行ってきた。本プロジェクトでは、社会性を「仲間との関係において適応的な対人行動がとれる能力」と定義し、既存の尺度を参考にしながら、社会性を測定する新たな尺度を作成した。因子分析の結果、「協調性・共感性」を測定する7項目が採用され（向田・酒井・一色・坂元・菅原、2006）、以降の調査で測定を継続してきた。今回の報告では、「協調性・共感性」と5歳時でのテレビ接触時間および視聴時間との関連の分析に加え、第1回調査（0歳）より6回調査までの累積接触時間および累積視聴時間との関連についても検討をおこなった。

2. 方法

調査時期：平成20年1月

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査対象：平成14年2月～7月に川崎市で生まれた子ども（調査時5歳）をもつ1047家庭のうち、回答のあった898家庭の母親と父親である。

調査内容：

- ①メディア接触…7日間の視聴日誌をもとに、テレビ接触時間（子どもが居る室内でついていたテレビの総時間）および視聴時間（子どもが見ていたテレビの総時間）を算出した。この指標について、対象児が0歳であった第1回調査より同じ方法によって測定を継続しており、第1回から6回までの6時点の総時間を算出した値を累積接触総時間、累積視聴総時間として分析に用いた。
- ②社会性…協調性・共感性を測定する7項目（表1）で、母親に5段階で評定してもらった。

3. 結果と考察

（1）「協調性・共感性」社会性尺度の主成分分析

社会性の下位尺度である「協調性・共感性」を測定する7項目の主成分分析の結果を表1に示した。尺度を構成している7項目すべてが第一主成分に.60以上で負荷しており、十分な次元性が認められたので、7項目の値を加算して以降の分析に用いた。

（2）5歳時点でのテレビ接触時間および視聴時間との関連

5歳時点における社会性の下位尺度「協調性・共感性」とテレビ接触時間との相関を表2に示したが、テレビ接触時間・接触視聴時間ともに、協調性・共感性とは有意な関連がみられな

かった。

表1 社会性尺度：「協調性・共感」主成分分析

項目	成分負荷量
1. 他の子どもと協力できる	.79
2. 協力して仲良く遊ぶ	.78
3. 友達が困っていることがわかる	.77
4. 友達が困っている時、慰めたりする	.70
5. 意見が対立したとき、解決策をみつけられる	.70
6. おもちゃを貸してあげ一緒に遊べる	.69
7. 遊びのなかで順番を待てる	.60

表2 5歳時点での社会性尺度とテレビ接触との関連（相関係数）

	テレビ接触時間 ^a	テレビ視聴時間 ^b
<社会性尺度>		
協調性・共感性	-.01	-.03

a：子どもがいる居室でテレビがついていた週間総時間

b：子どもがテレビを見ていた週間総時間

(3) 0歳時点から5歳時点までのテレビ接触の累積と子どもの協調・共感性との関連

0歳から5歳までの6時点でのテレビ接触に関する2つの値（累積接触総時間と累積視聴総時間）との5歳時点における社会性の下位尺度「協調性・共感性」との間の相関を算出したが、テレビ接触時間・視聴時間ともに、協調性・共感性とは有意な関連はみられなかった（表3）。

表3 5歳時点での社会性尺度と0歳～5歳までの累積テレビ接触との関連（相関係数）

	テレビ累積接触総時間 ^a	テレビ累積視聴総時間 ^b
<社会性尺度>		
協調性・共感性	-.06	-.03

a：子どもがいる居室でテレビがついていた週間総時間

b：子どもがテレビを見ていた週間総時間

以上より、社会性の1側面である「協調性・共感性」は、5歳時点までのところでは、テレビ接触の影響はほとんどないものである可能性が示唆されたといえる。今後も引き続き測定を継続し、乳幼児期のテレビ接触と社会性との関連について検証を続けたい。

4. 引用文献

向田久美子・酒井厚・一色伸夫・坂元章・菅原ますみ（2006） 子どもの社会性とメディア接触との関連 “子どもに良い放送”プロジェクト フォローアップ調査中間報告 第3回調査報告書 NHK放送文化研究所, 82-88.

菅原ますみ・向田久美子・酒井厚・坂元章・一色伸夫（2007） 子どもの社会性とメディア接触との関連 “子どもに良い放送”プロジェクト フォローアップ調査中間報告 第4回調査報告書 NHK放送文化研究所, 60-65.